東郷村報

第35号

昭和29年12月20日

発行所

宮崎県東臼杵郡

東郷村役場

日向市富高新町

株式会社 安藤印刷所

電話64番

文化祭を終りて

東郷村文化祭会長　塩月儀市

十二月十一日十二の二日間東郷小学校で第七回綜合文化祭を開催いたしましたが本年は例年になく盛会裡に終ることの出来ましたことは同慶に堪えません。これ全く村民各位の御協力の賜と深く感謝いたします。

本村が毎年文化祭をいたします所以は吾等の住む東郷村を住よい文化の香り高い村をつくりあげて吾等の子孫に偉大たる遺産を残したい念願に外ならぬのであります。

文化と申しましてもそれは吾々の日常生活の中にあるものでありまして何も生活と遊離しているのでないので文化を高めるということは結局は吾々の生活を高めることであります。吾々の生活を高めるには色々な事項がありますが経済力を増すこともその一つでありましようし健康な身体をつくりそれを保持することも又その一つでありましよう新しい知識を吸収することも、情操を豊にすることもまた大事な事項でありますので、本村民の生活に直結する事項は出来るだけ多くのことがらを文化祭の中にとり入れて開催しているのであります。

今年は度重なる台風にもめげず出品物も各部面共充実し見事なものが数多く出品され特に畜産展の出品牛は村内の優秀牛数十頭で盛観を呈し体育方面では新しく柔道大会が行われるなど文化祭行事の内容の充実と相まつて天候にも恵まれて見学の村人も非常に多かつたことはうれしいことでありました。然し静かに文化祭二日間のことをふりかえつてみると将来改善しなければならない幾多のことがら反省させられます。見学下さつた村民各位も文化祭について色々と感想や意見のあることゝ思いますので卒直な意見や感想を承わりまして来年は本年の短を補つてよりよい文化祭を開催したいと念願いたしています。

公民館分館文化祭講評

公民館分館一ケ年間の歩みを省みてその実績を展示して文化祭行事の行われましたのは寺迫の十一月二十三日を初め本館文化祭に併設して行われた鶴之内、田野羽坂、八重原の四館を終りとして十分館でありました本年は四回に亘る台風の襲来を受け未曽有の大被害を蒙りその後は引続く旱魃に見舞われましたので出陳も少く淋しい文化祭に終るのではないかと心配しておりました処各位のたゆまざる努力はよく不良天候を克服して各分館共その特色を発揮して充実した行事が行われ村民一ケ年間の努力の総決算にふさわしい文化祭でありました。開催された順に概況を申し述べますと、寺迫は収穫感謝の日を下して文化祭に併設して寺迫部落の宝庫百町歩山林の碑の顕彰を行い先賢の遺徳をたゝえ山祭りと敬老会を行い経済の中心をなす俵米一八点木炭九十二点を初め優秀な出品が極めて多く尚春夏秋の三回に行つた畜牛品評会の授与式も当日行い文化の向上と経済力の培養を象徴した行事を行い婦人連絡協議会青年団山林委員会部落がよく協調して文化の向上をたゝえながら一ケ年の労苦をねぎらうにふさわしい行事が繰り拡げられておりました。

越表は農林山物品評会とのど自慢大会が余興として行われました。品評会は出品も多く優秀なものでありましたが越表の経済力を左右する重要物産である木炭、椎茸の出品が意外に少なかつたのは淋しい感じを抱かせられました出品は多種類に亘つておりましたが今後は越表としての特徴を生かすことが大切ではないかと思われました。学童の作品展も児童数の少いのに優秀なものが多数出品されていました。慰安ののど自慢大会は出演者が多く七、八才の子供から老人に至るまでよく出演して楽しい一日を過しました婦人青年の協力も実によく統制がとれておりました。

仲深農林産物品評会が行われましたが台風の被害を最も激しく受けた地帯でありますから自しゆくされたせいか出品も極めて少く淋しい行事に終りました。役員の方々はよく敬蒙に努力されたようでありますが一般の協力が今一歩と云ふ感じが致しました。

小野田は耕地面積も少く兼業農家の多い地帯でありますが農林産物品評会が行われ良く特徴を生かして加工食品特に調味料は出品も多く優秀なものが多く家庭生活の合理化の面に努力されている点がよく伺われました。副業生産物農産物にも優秀なものが多く運営には青年団婦人会一般の協力が強く行事は極めて順調に進んでおりました。

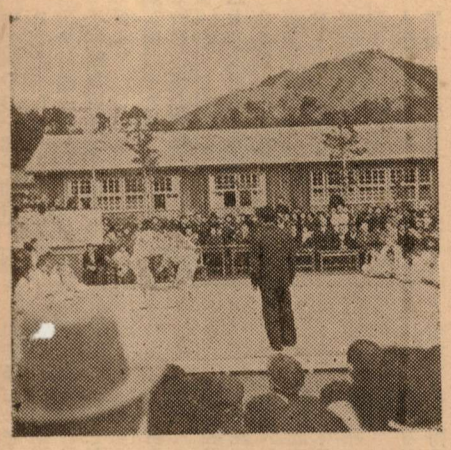
福瀬は農林産物品評会と開商の碑の顕彰が併せ行われました品評会は例年に比して出品も多く優秀でありましたが、開商の先覚者が交通不便の往時万難を排して京阪の地に声価を高めた福瀬炭の出陳の少なかつたことは淋しい感じが致しました。先賢の遺徳を偲び将来の希望を燃やすべき開商の碑の顕彰式に参列者が少なかつたことは誠に意外の感がしました。青年団が協力して行事が運営されていました。

迫之内は農林産物と畜牛品評会が開催され出品も多く優秀なものでありました。特に優秀な牛を多数出陳して一般の参観に供し畜産迫之内を顕現していることはよく特徴を生かし力強い感じが致しました。生産組合長婦人青年の協力は良く統制がとれていて部落の和を象徴しているように思われました。一般部落民の参観も多く文化の向上を楽しむ様相が現われておりました鶴之内は本館文化祭と併設して農林産物品評会が行われましたが畑地地帯鶴之内の特徴をよく生かして、そ菜類と大豆に特徴を持ち実に優秀品揃でありました部落民の協力態勢もよく早朝から夜晩くまで館長を補佐して努力されていた点は将来に期待する処が大きいと思われました。実に立派な生産でありますから将来これの販売に一致協力態勢の整備に努力して文化の基盤をなす経済力の涵養に努めるべきだと思われます。

八重原、羽坂、田野は本館文化祭に併設して農林産物の品評会が行われました。出品物には優秀なものがあり特に田野の白菜は目立つており、羽坂、八重原にも優秀なものが出品されておりましたが台風の影響であり例年に比べて出品数が少なく少数精鋭主義を取られたことゝ思われますが他に比べて見劣りがしたことは止むを得ないことと思われました。本館の文化祭と併設して行われた為か一般の関心も他の公民館に比して少ないように思われました。

以上各分館文化祭の概要を申し述べましたが各館共よく本村文化経済の進展に努力されている点が伺はれ心強い感じが致しましたが、尚今後一層の御奮励を御願致します。

以上の結果各審査員と慎重審議の結果優秀と認められますベスト五をえらび文化祭会長よりの褒賞の授与がありました。



東郷村文化祭・柔道大会

昭29東郷村文化祭 学芸品展覧会審査報告

一、習字の部

1 昨年の文化祭の作品に比べて各学校共著しく進歩している。

2 紙質は、清書の出来栄えに左右する所が大きいので、このような展覧会に出品する時位いは、上質の用紙を使用したい。

3 学校によつては、まとまつてきれいな作品が揃つている所があつたが、大胆な書風に欠けて入選の出来なかつた面もある。

4 条幅の出品が多数あつたが、学校によると半紙三枚継ぎの「画仙紙」代りのものが見受けられた。経済的見地ばかりで事をきめず「画仙紙」を使用したいものである。

5 今度の文化祭には、条幅と半紙のものがそれぞれ出品されてあつたが、前もつての可否をはつきり決めておく必要がある。

6 今年までは、各学校、各学年別に出品点数の二割五分を入選とし、特選一を学校を外して各学年別に定めたが、来年度からは出品されたものについて学校を外し、学年別に等級を決めることを望む。

二、図画の部

1 全般的にレベルが非常に向上し、昨年まで感じられた学校左が無くなつた。

2 入選作品は何れも明るく美しいものである。特に特選となつた小一小二・中一の作品は秀作である。

3 低学年の作品は、新鮮そのもので伸び伸びと描かれてあつた。高学年及び中学校は作品に充分溶けこめず、これに描かれていて感心させられた。

6 一部に、指導者が望ましい児童画の偶像をえがき、その偶像に児童の描画方向を定めた形跡が見られたのは残念であつた。指導者の芸術意識を強制する事は避けねばならない。

7 どこに、何に描画の対象を見つけ出すかという、着想の問題については、更に研究の余地がある。

8 本地域特有の暗色調、褐色調が次第に画面から失せつゝあることは喜ばしい。

三、工作の部

1 着想、技術共に向上の余地を多く残している工作は「考作」である。もつと考えさせて作らせることが大切ではないか。

2 技術面では、基礎的なものゝ欠如を痛感した

3 合作は一つの対象を、プロゼクトを通して表現しようとする企てであるが、その場合の対象の考え方になお一考の余地がある。

四、手芸裁縫の部

1 小学校は出品数が極めて少く残念であつた。これは指導時間数の不足からきているものとはという気持になれなかつたが、夫々の調子はよく生かされていた

4 小四の作品は断然秀れていて、優劣がつけ難い程であつた。

5 東郷中一年伊東君の作品は、生活の中にモチーフを見出した特異な作品で、力強く意欲的思われる。

2 努力向上の後は見られるが、もつと創作的な工夫がほしい。

3 中学校は、一年・二年は順調であるが、三年生の不振は残念である

4 仕上げの点にもつと注意が欲しいと思われるものが多かつた。

東郷村文化祭・農産展

（文責　東郷中　海野）

※特等入選者名

習字の部

小一　石川けいじ　坪谷
小二　石川　祐士　仝
小三　吉田　美子　寺迫
小四　橋口　朝子　仝
小五　石川　純子　坪谷
小六　黒木　学　寺迫
中一　石川　修士　坪谷
中二　坂口由紀子　仝
中三　寺原美千代　東郷

図画の部

小一　矢野　希人　坪谷
小二　福原　健一　東郷
小三　水野　彰治　寺迫
小四　三浦　猛夫　坪谷
小五　菊池　敏光　東郷
小六　橋口　栄子　越表
中一　伊東　一憲　東郷
中二　山元　征一　越表
中三　寺原　正昭　東郷

工作の部

小一　福瀬一の一組
小二　東郷二の梅組
小三　草野千鳥外五東郷
小四　なし
小五　石川　純子　坪谷
小六　矢野　魁　仝
中一　木田　宣久　越表
中二　寺原　俊雄　東郷
中三　河野　栄一　越表

家庭の部

小五　高尾ルイ子　福瀬
小六　松本　京子　東郷
仝　佐藤　洋子　仝
中一　寺原　勝子　東郷
仝　小林みどり　仝
中二　水尾　教子　仝
中三　石田　安子　越表
仝　石川　博子　東郷
計　三十四名

※各種目入選者数

学校名	入選数
越表小	一三
坪谷小	二二
東郷小	三七
福瀬小	一九
寺迫小	一二
坪中越表分校	一一
坪谷中	一〇
東郷中	二九
小学校計	一〇三
中学校計	五〇
合計	一五三

小学校新入学児童の調査について

昭和三十年四月に村内の各小学校え新しく入学する子弟は昭和二十三年四月二日から昭和二十四年四月一日迄に出生した者です。只今村教育委員会においては各部落の組合長さんにお願いして、これらの子弟を調査しておりますので調査洩れ等のないよう次の事項について御留意の上予め組合長さんと連絡をとつて下さい

一、病弱発育不全、不具者等でどうしても三十年度より入学出来ない者は医師の診断書を添えて就学猶予又は免除の申請書を村教育委員会に提出すること。

二、盲ろう児は盲ろう学校に就学する義務があるので該当者は村教育委員会に申し出ること。

三、該当者が今後転出転入したときは、村教育委員会に届出ること。

その他不明の点については村教育委員会事務局にお問合せ下さい。

成人祭について

梅香る新春の十五日第七回目の成人式を左記の通り行います。

申し上げるまでもなく成人の日は「大人になつたことを自覚し自から生きぬこうとする青年を祝いはげます」日でありますので郷土民こぞつてその門出を祝福するようお願いします。

記

一、期日　一月十五日
二、場所　東郷小学校
三、行事

1 成人式
午前十時より式典

2 講演会
午前十一時より十二時半迄

3 研究発表会
午後一時より二時半迄
郡予選をかねて産業振興青少年研究発表会を行う

4 懇親会　記念撮影
尚本年度成人該当者は昭和十年一月十五日から同十一年一月十四日迄の出生者です。

「東郷村誌」を実費でお頒ちいたします。希望の方は一月十日までに申込み下さい。

四ケ年の長い日子をかけようやく「東郷村誌」を刊行することになりました。内容の概略は「東郷村の沿革」と「東郷村の自然」をはじめに記し、次に、東郷村の史実として縄文時代、弥生式時代、鉄器時代、東郷について、藩領と幕領、山陰百姓一揆、供養塔と墓褐、山陰城と坪谷城、番所、坪谷百姓一揆、西南の役等を集録し「東郷村政誌」で明治二十二年より本年まで六十五年にわたる村政の歩みについて詳述し、「東郷村の教育」では明治五年学制頒布以来の東郷村の教育の変遷、各学校の沿革、社会教育を詳記し「東郷村の宗教」で村内各神社、寺院の由緒等を明記しました。

その他村内の各官公衙、諸団体、伝説、方言、俚謡俗信、年中行事等を出来るだけ多く集録しました。

「東郷村の人物」として本村の文化、村政、産業経済、教育等の進展に大いに力を竭した故人十三氏の業績について記しました。

写真も記録的なもの八十余枚挿入してあります。是非一冊は各家庭にお備えになることをおすゝめいたします。

議会報告

東郷村議会臨時議会は十一月二十九日村議会議事堂に招集され会期一日間で次の事件を審議何れも原案どおり可決確定した。

議案四十四号　東郷村公平委員会委員の選任について

△本件本村の公平委員会委員中森為夫君の任期が満了したので改めて同人を選任方議会の同意を得る議案で原案どおり決定した。

議案第四十五号　中小企業災害復旧資金特別融資損失補償条例の制定について

△本件は本年九月台風第十二号による村内中小企業者の災害復旧とこれが振興を図る目的をもつて村において借入金の一部につき損失補償をなし国民金融公庫からこれ等業者が資金の融資を得らるゝよう中小企業災害復旧資金特別融資損失補償条例制定の議案で原案どおり可決、条例は即日施行された。

議案第四十六号　災害復旧資金融資損失補償契約について

△本件議案第四十五号による条例制定に伴い村と国民金融公庫との間に締結する契約の議案で原案どおり可決した。

議案第四十七号　台風被害農家の宮農資金借入れの利子補給契約について

△本件東郷村農業協同組合及び寺迫農業協同組合が本年八月及び九月における台風災害農家復旧のため県で定めた『台風被害農家に対する金融措置要項』に基く宮農資金の融資を得らるゝため村において利子の一部を補給することゝ県信用農業協同組合連合会との間に利子補給契約をなす議案で原案どおり決定した。

議案第四十八号　東郷村選挙管理委員会委員の選挙について

△本件本村の選挙管理委員会委員の任期満了に伴い議会で選挙を行い委員、補充員の決定を行う議案で原案どおり可決即時投票を行い次のとおり当選人が決定した。

委員　渡辺義春、黒木嘉市、小山勇夫

補充員　中野義男、都甲甚三郎、三尾認太郎

麦の手入れはぬかりなく

これから一月下旬の麦の手入は有効分ケツをふやして穂の数をたくさん取るために必要な仕事になります。

一、追肥　麦は本葉二枚目頃までは種ての中の養分で育ち本葉三枚目頃から根から吸つた養分で大きくなることになりますので麦の幼い時に必要で元肥に施肥しなければならない。燐酸や加里肥料が元肥に施すことの出来なかつた場合は麦が一人立ちで肥料を吸ふようになる。本葉三枚目頃までに施すようにしませう。チツソ肥料も三分の二位が追肥に残してありますからその半分位を寒肥として一月中下旬に施しませう。

二、中耕　土壌をやわらげて空気の流通をよくし土壌風化のをはかり肥料の分解をよくして根張りを強めたり根を深く地中に伸ばして乾燥や寒さに強い麦を作るのに大切な仕事になりますので普通の場合土入や麦踏は四枚目頃から初めるのがよろしい。第一回の土入れは細かに砕いて浅く行い麦が生長するに従い深くすることがよろしいしかし播種の際土かけが浅すぎた場合とか霜柱のひどい所や土が軽すぎて風が強く土が飛ばされるような所では本葉四枚になる前でも麦踏や土寄の必要があります。要するに麦の身になつてどうすれば麦が楽に冬を越し株張りがよくなるかと云ふことを考えて手入の仕方を誤らないようにして麦の増産に努めませう。

三、麦踏と土入れ　麦が分ケツを初めるのは本葉四枚目からで本葉と同時に一番下の葉の節から分ケツが出てその後本葉一枚毎に分ケツがふえて来ます。又条件がよいと最初の分ケツと同時に一番下の葉の下にある葉鞘だけの不完全な葉の節からも分ケツが出ますので余り早くから土入れをしたり麦踏をしたりすると返つて分ケツを抑えることになりますので普通の場合土入や麦踏は四枚目頃から初めるのがよろしい。第一回の土入れは細かに砕いて浅く行い麦が生長するに従い深くすることがよろしいしかし播種の際土かけが浅すぎた場合とか霜柱のひどい所や土が軽すぎて風が強く土が飛ばされるような所では本葉四枚になる前でも麦踏や土寄の必要があります。要するに麦の身になつてどうすれば麦が楽に冬を越し株張りがよくなるかと云ふことを考えて手入の仕方を誤らないようにして麦の増産に努めませう。

寄生虫予防週間に寄せて

村立診療所　上田記

十二指腸虫病は本邦に於いては軽視し得ない疾患の一つである。十二指腸虫の仔虫が我々の人体に侵入する方法は二通りある

㈠は食物と同じく口から侵入することで、即ち仔虫の附着した野菜類を食つたり仔虫の入つた生水を飲むことによる。仔虫は勿論肉眼では見えない程小さいものである。従つて我々が知らない間に口から取り込むのである。

昔から此の病気を若菜病と云つて晩夏初秋に見られたのは若菜の一夜漬を摂食した折にこの若菜に多くの十二指腸虫の幼虫が附着していて発病する為である。

㈡は十二指腸虫の仔虫が入つている濁水、畦路等を歩行する時は皮膚から我々の体に侵入することである。

此の仔虫は全く健康な傷も何もない我々の皮膚を勇敢にも突き破つて侵入するものである。季節は晩春から梅雨期夏期秋期を問はない斯くして人体に侵入した仔虫は五～六週間で成虫となり、愈々その猛威を発揮し多数の卵を産み、卵は便と共に外に出されて、仔虫となり人体に浸入する。此の虫は人類以外の動物には絶対に感染しない。又此の虫は暖地、熱帯に多く特に農業地帯に濃厚に存在し、被害も大である。

予防法、先ず生野菜殊に青菜等は良く水洗して使用すること或は生水を飲まぬことである。皮膚からの侵入を防ぐ為に予防具をつけて農業に従事することは到底不可能であるから、十二指腸虫が大便の中に卵として存在している間に之を撲滅することである。宮川博士等の研究によると、此の卵は人の糞便を自然に腐敗醗酵させると、夏期は二週間冬は三週間で死滅する。それ故二個以上の肥溜を作り、雨水の入らぬ様にして上述の期日に達する迄待つて肥料を使用し絶対に新鮮な人糞を肥料に使用しない様にすることである。

蛔虫も又十二指腸虫と共に甚大な被害を我々に与えるものであり、此の虫の卵は十二指腸虫の卵より遙かに強く、且つよく発育する例えば九昼夜氷結するも死なない。従つて此の虫は寒地にも多数存在する。この虫卵は十五昼夜塩漬するも死滅しない。又食酢醤油の中に七昼夜入れても死滅しない程強い。これは十二指腸虫の様に皮膚から仔虫が人体に侵入することはなく全く卵の儘我々の食物に混じて、人体内に入る。やはり生野菜、生水等と混じて入る。

予防法は糞便中に卵として混在している内に撲滅することであり、十二指腸卵と同じ方法即ち糞便の自然醗酵腐敗にて死滅せしめる方法が最もよい。

冬の衛生

（感冒）

秋から冬、冬から春にかけては最も感冒にかゝり易く、急に寒かつたりした時等に不用意にかゝるのが普通である。症状は鼻腔内の粘膜に炎症が起り、鼻がつまりくしやみや、鼻水が出て来る。次に扁桃腺や咽頭が赤くなり次第に熱が出て来る。予防にはふだんから皮膚を丈夫にしておくこと寝る前には冷たい寝巻と着かえる習慣をつける。

冷水まさつ、乾布まさつで皮膚をきたえる風のはやる時は劇場等人出の多い所はなるだけさける。清潔なマスクを使用する事等に注意する。

『インフルエンザ』

流行性感冒も冬に一番多い病気の一つ普通の風とまぎらわしいが、インフルエンザウイルスによつて起る病気だ。症状は寒気がし、急に熱が出て、体温は三八度～四〇度位にのぼり、体が慄え頭がわれるようにいたく、ふしぶしがいたくなる、こんな病状が現れると間もなく、目や鼻咽喉のカタルが始つて涙が流れ、鼻がつまり、水ばなが流れ、のどがかわいて痛みを感じる。この様な症状は一週間位で平熱になり次第によくなるのが普通であるが、この病気の流行時には、気管支炎、老衰、腎臓炎、妊産婦の合併症、脳出血などの死者がふえることが明かにされている。予防には一般的な注意として、睡眠をよくとり、栄養がかたよらぬように気をつけ、常に体の抵抗力を養つておく、汗のついたまゝのシャツを着ていたり、うたゝ寝をすることはカゼを引き易いから最も注意をしなければならない。流行時にはウガイをよくすること、人ごみに出る時は必ずマスクをつけること、特にカゼを引いた人は人にうつさぬ心がけが大切である。

（厚生省編輯防疫情報より）

冬草山の歌

牧水

はつとしてわれに返れば満月の冬草山をわが歩み居り
冬枯の黄なる草山ひとりゆくうしろ姿を見むひともなし
冬草山鳥の立つにもあめつちのくづれしごとき驚きをする
枯草にわが寝て居ればそばちかく過ぎる子供のなつかしきかな
かれ草のなかに散たる櫨の葉をひろはむとして手のさびしけれ

農業共済制度について

農業災害補償法が交付されて、十二月二十五日で七周年を迎えようとしている。戦後農政の根本課題は農地改革立法、農業協同組合法及び農業改良助長法によつておくれた日本農業を新しい基盤の上に協同化を図り新しい技術能率的な機械の導入により近代的農村を打ち樹て峡い国土から出来る丈け多くの農業生産力をあげる事にあつた。しかし農地改革が行われ農業協同組合が設立され、農業改良普及事業が徹底されても農業の近代化は完全に図り得ない特に日本はその地理的気象的関係から諸外国にみられない災害頻発国でありその上農家経済は極めて弾力性に乏しい細農経営であるのでかゝる日本農業の自然的綜合的特殊性に対して国家投資に依る災害の未然防止対策と併行して国と農民が一体となつた災害対策が講ぜられ災害時の損失補塡を図ることが肝要であるので農業災害補償法が農地改革の一環として農業協同組合法と共に制定されたのであります。而してこの法律施行後日本経済は国土の荒廃と戦後のインフレに悩まされたが農業災害補償法は遂年強化され罹災者に対する損失補償農家金融の逼迫に対処して農業手形の裏付として或は病害虫共同防除並に家畜診療事業に依る家畜の事故防止等農家経済に寄与した所は多大なものがあつた。しかしながらその半面この制度に対する国庫支出の増大制度自体に内在する各種の矛盾最近の農家経済に反比例する共済掛金の上昇並にこの制度に対する農民の理解不充分などから農民及び農業団体側並びに国の立場からもこの制度に対する批判検討がなされてきたのである。

共済金支払について、本年度水陸稲にあつては四次に亘る台風の被害は本村初つて以来の一大惨事でありこれによつて受けたる損害は精神的或は物質的に非常な痛手であつた事は御同情に堪えません。さてこれ等被災農家に対する共済金も近く交付される事になりますが、共済金を一日でも早く交付されるためには共済掛金を早急に納入する事でありますので、今すぐ組合宛納入下さるよう御願致します。尚共済金と共済掛金との相殺は法的に断然出来ませんので必ず掛金は納入しなければなりません。今月は共済組合の必要性について記しましたが、今後はもつと詳しく農業共済制度について記して行きたいと思います。

東郷村文化祭
簡易動力農器実演

文化施設有線放送について御知らせ

最近文化の寵児として各地に有線放送が実施され大変な便益を受けておりますので、本村に於ても年度初め以来準備を進めて来ましたが、一応の成案を得ましたので、近く実施に移すことになりましようからその際は皆さんの絶大な御協力を御願します。

有線放送の良い点

(1)施設が簡単で設置費用の安価なこと。

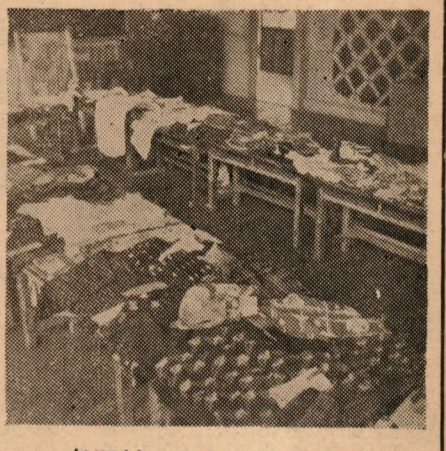
(2)電灯のない家でも聴くことが出来ること。

(3)連絡事項や示達事項が一時に全聴取者に行きわたること。

(4)ラジオや電灯のない家でも安価な料金でラジオが聴けること。

(5)聴取料金が安価いこと

以上のような優れた点をたくさんもつておる上に聴取戸数が多ければ多い程設置費や聴取料が安価になりますので、一戸でも多く聴取して一日も早く実施の出来るよう御協力を御願します。



東郷村文化祭・手芸品展

本館文化祭の各種目別成績表

体育の部

【卓球】
一等（海野政治　下田正徳）
二等（甲斐計助　三浦斌）

【排球】
一等　鶴之内青協チーム
二等　小野田青協チーム

【庭球】
一等（下田正徳　奈須武行）
二等（新名淳一　寺原人見）

【駅伝】
一等　坪谷中学Aチーム
一等　仲深青協Aチーム
二等　東郷中学Aチーム
二等　越表青協チーム

【柔道】
一等（福谷渡　東郷中）
一等　東村吉市
二等（橋口洋基　東郷中）
二等　戸高満雄

富島中学と東郷中学対抗試合の結果富島中学優勝

尚駅伝区間賞保持者は一区中谷憲一、二区児玉哲郎、三区矢野明、四区三原勝、五区寺田光

手芸品の部

【手芸品】
優等（本多八穂子　水尾敏子）
一等（塩原芳子　木村月子）
二等（吉田植　田丸野　徳子）

編集後記

△今年もあと一旬で別れなければならない。「鳥兎匆々」の句が今更のように身に迫つて来る。

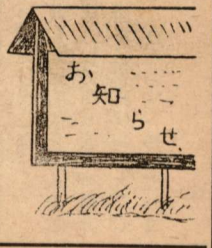
△昭和二十九年は本村にとつてはまことに多事な年であり多難な年でもあつた。愉しい嬉れしい思い出も多くまた苦しい悲しい思い出も多い年であつた。

△愉しい嬉しい事は来年もまたつゞくように努力をつゞけよう。苦しい悲しいことは吾等人生行路のよい試練であつたと感謝してこの年を送り希望の昭和三十年を迎えよう。

△本年掉尾の一大行事である文化祭も盛会裡に終ることが出来てよろこばしい。本号は文化祭号とし村民各位の御一読をお願いして本年最終の東郷村報とした。

△こゝで心から一年間の御支援を感謝し村報子も硯を洗い筆を新にして村報六歳の迎春の準備をしよう。

うしろから追はるゝような師走かな



短歌の盛んな村東郷の名にふさわしい新年祝賀短歌会を村内同好の士の協力によつて盛大且つ有意義に行いたいと思います。どうぞ奮つて出詠御参加下さいますよう御願い申します。

新年祝賀村内短歌大会

一、とき　昭和三十年一月三日午前十時
一、ところ　東郷小学校
一、歌題　自由
一、出詠　五首以内
一、提出期限
昭和三十年一月三日必着
一、送り先　東郷村役場、本田茂雄宛
一、当日参加者は昼食携行のこと

主催　山彦短歌会
後援　東郷村教育委員会